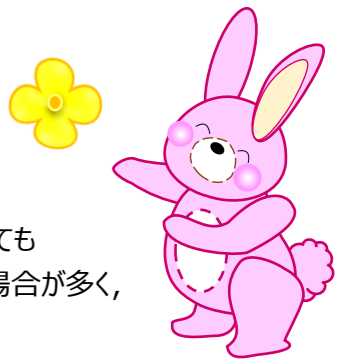




耳のおはなし



耳には『音を聞く』という大切な働きがあります。耳は他の器官に比べて、病気になっても気がつきにくいと言われています。年齢が低いほど、症状があってもうまく伝えられない場合が多く、周囲の大人が日頃から気にかける必要があります。

子どもに多い急性中耳炎と滲出性中耳炎について

急性中耳炎と滲出性中耳炎の違いはなんですか？

急性中耳炎と滲出性中耳炎の違いは下の表をご覧ください。風邪の症状は落ち着いたのに熱が下がらないなどの症状がある場合は、中耳炎を疑って耳鼻咽喉科へ相談してみましょう。



風邪をひくと、中耳炎になりやすいです。どうして子どもに中耳炎が多いのでしょうか？ 予防方法はありますか？



耳と鼻は耳管という管でつながっています。下の図をご覧ください。大人の耳管と比べて、子どもの耳管は**太く・短く・水平**のため、上咽頭（鼻の奥）の細菌やウイルスが耳管を通りやすく、中耳炎になりやすいのです。

	急性中耳炎	滲出性中耳炎
原因	●風邪をひき、 ウイルスや細菌が鼻の奥と耳をつなぐ耳管 を通して、中耳に入り炎症を起こすことが原因	●耳管の機能が悪く、 滲出液 が耳にたまり、鼓膜の動きが悪くなるのが原因 ●急性中耳炎に引き続いて起こることも多い
症状	●耳の痛み、耳だれ ●耳のこもった感じ、耳をよく気にする ●発熱 など	●耳のこもった感じ、聞こえにくい（呼びかけても反応がない、テレビの音が大きいなど）
治療方法	●痛み止めや抗生剤などの薬を使う ●耳の中に膿が溜まっている場合は、鼓膜を切開し膿の逃げ道をつくる場合もある ●家庭では鼻水をこまめに取り除くことが大切	●薬による治療で治ることもあるが、治らない場合は鼓膜を切開して液を抜いたり、鼓膜に小さなチューブを入れることもある



子どもの耳の方が、細菌やウイルスが耳に入りやすく炎症を起こしやすい構造になっています。

予防方法

- ※鼻水をためないようにしましょう。鼻をかむのが難しい子どもは、鼻をすすってしまいます。鼻をすすると、その度に細菌やウイルスが、鼻の奥から中耳に入りやすくなります。こまめに拭き取ったり、正しい方法で鼻をかみましょう。
- ※鼻水が続いたり、黄色い鼻水が出始めたら、かかりつけの医師に相談しましょう。

正しい鼻のかみ方

- ①両方の鼻をティッシュで覆うように当てる。
 - ②片方の鼻を優しく押さえ、口から息を吸って口を閉じ、鼻をかむ。
 - ③反対側も同様に鼻をかむ。
- △強く鼻をかむと、耳の中の圧力が高くなることで、耳が痛くなってしまふことがあるので、気をつけましょう。

耳の病気のサインいろいろ。こんな様子はありませんか？



耳が痛い



機嫌が悪い



耳が聞こえにくい



耳をよく気にする



耳だれがある



呼んでも気づかない

気になる症状がある場合は、耳鼻咽喉科へ相談を

- ※大きな物音や騒音に驚いたり、不快感を示さない
- ※人の声（特に小声やささやき声）に反応しない
- ※音の鳴るおもちゃに反応しない
- ※顔を見ながらの会話は出来るが、後ろから声をかけると返事をしない
- ※普通に話しているのに、何度も聞き返す
- ※距離が離れている、騒音がある状況での会話は理解がしにくい など

子どもは新しい言葉や知識を、耳から聞いて学習します。そのため聞こえにくさが軽度でも、できるだけ早く適切な治療や支援が必要です。支援が遅れると、言葉が遅れる、お友達とうまく遊べないなどの影響がでることがあります。

